紅花が隠し持つ色「深紅」を追求した商品開発
～色と織の技を重ねたこだわりの希少作品～

土地柄・課題　山形県花の紅花を使った美しい商品

皇居新宮殿や歌舞伎座などに製品が納入され、全国にその名を轟かせているオリエンタルカーペット株式会社。「山形緞通」と呼び習わしている絨毯は非常に手の込んだものので、まるで絵画のように見えるという声もあるほど。古典的な柄だけではなく、最近では新古典の柄や国内の有名デザイナーとコラボした絨毯も販売しており、人気は高まる一方。熟練の職人さんに支えられている技術は、他社の追随を許しません。

「山形県工業技術センターさんが、紅花で羊毛を染める独自の方法を確立したんです。それならば、我々の技術を活かしてインテリアになる商品ができないかと考えたのが、今回の取り組みのきっかけです」と話してくれたのは、代表取締役社長の渡辺博明さん。県の花である紅花を有効に活用できたらという思いにより、事業が始まったのです。

取組の経緯　たった2パーセントの深紅を活かしたい

材料となる最上紅花については、山形県紅花生産組合連合会から全面的な支援を得ることができ、紅もちを提供してもらうことになりました。ただ、紅花の生産量が全体的に落ち込んでいる現在、わけてもらえる紅もちの量には限りがあります。2～3kgとわずかな量を使ってどんなものができるか、検討を重ねました。

紅花というと黄色を思い浮かべる方が多いと思いますが、ここで渡辺さんが着目したのが、わずかながら出る深紅の色です。

オリエンタルカーペット株式会社
代表取締役社長　渡辺博明さん

「紅花はほとんどが黄色やピンクになってしまうのですが、2％くらいの割合で深紅に染まることをはじめて知ったんです。それならば、その貴重な深紅の糸を使ってテーブルセンターをつくろうと思いました」と渡辺さん。とはいえ、当初は黄色～深紅のグラデーションを入れるなど、デザインとしては10パターンの案を考えたそうです。ただ、今回はあくまでも赤1色で商品をつくりたいという思いから、最終的に深紅のテーブルセンターをつくることが決まりました。

工夫　紅花のイメージを覆すための試行錯誤

羊毛の染色には苦労したそうです。「うまく深紅に染まるかどうかは、染めてみて乾燥させるという過程の最後までわからなかったですね」と渡辺さんが語るほどです。絹などと違って羊毛は重ね染めができないため、1回で色を定着させられるかが勝負でした。染色の際、最初に黄色の色素が定着してしまうと、求めていた鮮やかな赤にはならないとのこと。せっかく最上紅花を使うのだからと、理想の深紅にこだわりました。この商品は、社員の方のアイデアで「紅花榮」と名付けられました。渡辺さんは、「山形の最上紅花をうまく利用したものづくりが、当社の技術と県の協力によって形になったと思います」と話してくれました。

成果　希少価値を活かした限定品として

1kgの紅もちで染めることができるのは、テーブルセンター5枚分の羊毛のみ。そのため、1年に生産するのは10枚ほどと、ごく限られた数になりましたが、かえってそれが限定品として価値を高めることになりました。世界的デザイナーの奥山清行さんにパッケージのデザインを依頼したのも、付加価値として大切な要素と考えたからです。「箱を開けたときに『わあっ』という声が上がることをイメージしました」。実際に購入した方からは「いつも使っています」という声をいただくことが多いそうです。手に入れた方からの紹介で、すでに翌年の予約も入っているとのことで、その評判のよさが窺い知れます。

今後の課題・展望　形にしたのは紅花の力

「今回は、このテーブルセンターで、紅花の価値を知っていただいたのかもしれませんね。これは紅花の力、深紅の力だと思います」と渡辺さん。山形といえば紅花、紅花といえば山形。オリエンタルカーペット㈱ならではの技術を活かした製品で、これからも山形の紅花のブランド力をいっそう高めていければと語ってくれました。

色鮮やかな「紅花榮」。
これまでの紅花のイメージとは違う深紅のテーブルセンターは、インテリアとしてもいいアクセントになる

事業実施体制　（助成期間 H24.11～H25.10）

〈農林漁業者〉
山形県紅花生産組合連合会
（原材料の提供、一次加工）

（連携）↓↑

〈中小企業者〉
オリエンタルカーペット㈱
（商品企画、製造、販売）

事業の今これから　令和元年12月現在

太陽光で退色しやすく、移ろいやすいという紅花の色素。開発したテーブルセンターは、紅花の性質を考慮し新品の状態でお届けするため、現在は受注でのみ生産をしています。これまで、山形県の紅花にご縁のある方や関心のある方にお求めいただき「化学染料では表現できない色彩」との声もいただいたとのこと。また、紅花をモチーフにした製品として、令和2年3月に開館予定の山形県総合文化芸術館大ホールの緞帳製作も手掛け、製作には20kgの紅花が使用されているそうです。「紅花を活用した商品は『見せる敷物』としての可能性を感じます」と渡辺さん。これからの展開にも期待が高まります。

山形緞通

会社概要
オリエンタルカーペット株式会社
住　所／〒990-0301 山形県東村山郡山辺町大字山辺21
電　話／023-664-5811
ホームページ／https://yamagatadantsu.co.jp